

教育目標		心豊かでたくましく、自ら学ぶ意欲をもつ児童の育成						
重点目標		①「わかる授業」「楽しい授業」をめざした授業改善の推進 ②豊かな人間性を育てる心の教育の推進 ③健やかな体の育成と健全な食生活の推進 ④共感的な児童理解に基づく生活指導の充実 ⑤教育環境の整備・業務改善と学校安全の充実						
主要施策	施策目標 基本施策	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者の評価
学校教育	「確かな学力」の育成 ①授業改善 ②誰一人取り残さない取組 ③学校・家庭・地域の連携	②基礎的、基本的な知識・技能を習得する。	・週に1回さくらタイム(放課後学習)を実施する。 ・朝学習で、定期的に学力補充を進める。 ・漢字小テスト、算数タイムを定期的に実施する。	・教育課程部を中心に朝学習・えんぴつタイム・さくらタイムを計画的に実施し、学力補充に努める。 ・漢字小テスト、算数タイムを年間30回以上する。	C	・朝学習・えんぴつタイム・算数タイム等やさくらタイム(放課後学習)をとおして、国語・算数の基礎学力の定着に努めた。 ・算数の学習で自発的に参加したい児童も含めながら、週1回学力保障に努めた。 ・Zoom等の配信により、長期欠席者の学力保障に努めた。 ・毎年継続することで、経年比較を行い、児童のつまずきを見つけ、今後の指導に生かした。 ・コロナのため実施できなかった。	・引き続き、朝学習・えんぴつタイム・算数タイム等を徹底し、さくらタイムも継続させる。 ・引き続き、国算において学力の保障を継続させる。	引き続き、確かな学力の育成に向けて取り組んでほしい。 読書活動の推進に向けて、家庭への呼びかけなど連携を強化していただけることを期待している。
		①思考力、判断力、表現力を育てる授業を展開する。 ①主体的・対話的で深い学びの実現をめざす。	・「週に1回さくらタイム(放課後学習)」の作成、論述などの学習活動を発達段階に応じて充実させる。 ・単元の中で、ペアや全体において話し合いの場を設定する。	・ワークシートや授業の振り返りの記述、発表の内容などに、考えの深まりが見られる。 ・授業の中で、ペアワークを取り入れる。		・レポートや新聞などの書く場面を発達段階に応じて授業に取り入れることができた。 ・思考を深めるためにペア活動やグループ活動を授業に取り組むことができた。	・単語での発表をよしとせず、主観・理由・根拠を大切に発表を今後も学校全体で取り組んでいく。 ・授業を聞きっぱなしで終わらせず、発言する機会を確保することで、児童のより確かな理解へつなげる。	
		①読書活動を充実させ、読書力の獲得を図る。 ③家庭学習を充実させ、学習意欲を向上させる。	・朝学習での読書、長期休業中の貸出冊数の増加、年1回の「読書週間」の推進、学級文庫の充実により読書習慣作りを進める。 ・さくらノートの活用や読書を含め、家庭学習の目標時間低学年30分、中学年60分、高学年90分を達成させる。	・児童アンケート「本を読んでいる」の回答で、週1時間以上読んでいると回答する割合が70%以上になる。また、保護者アンケートの「家で読書ができる環境を作っている」と回答した割合が70%以上になる。 ・低学年30分、中学年60分、高学年90分の目標時間を達成する。		・児童アンケート「本を読んでいる」の回答で、週1時間以上読んでいると回答する割合が70%以上になる。また、保護者アンケートの「家で読書ができる環境を作っている」と回答した割合が63%である。 ・家庭学習については、低・中学年は目標時間を達成しているが、高学年においては目標時間に満たず、課題の出し方や家庭への呼びかけに課題が残る。	・読書週間の充実、読書週間の増加、週末に読書の宿題を出すなど、読書の習慣作りを努めていく。 ・学期ごとに読書週間のねらいをしぼり、ゆとりを取り組めるよう読書月間も取り入れる。 ・図書館からの配架の充実を図るとともに、学期ごとに学年で学級文庫の交換を呼びかける。 ・学校での読書の習慣を家庭でも継続できるように、読書週間などを通して家庭読書を推進していく。 ・家庭学習については、懸念などを通じ、取り組む良さや必要性を伝えていく。また、課題内容の充実にも努め、保護者には、引き続き、サインの徹底を呼びかけていく。 ・設定時間に適した内容の課題を考えていく。	
	新しい時代に対応した教育の推進 ①情報活用能力の育成 ②英語教育の充実 ③デジタル化の促進	①授業の展開を工夫し、学習意欲を向上させる。 ③児童の情報活用能力の育成を図る。	・導入・展開・まとめのそれぞれにおいて、電子黒板やタブレット等のICT機器の活用を進め、児童の学習意欲を高める。 ・タブレットの操作等において、情報活用能力を高める。	・児童アンケートにおいて、「先生は、教え方にいろいろな工夫している」と回答した割合が85%以上になる。 ・電子黒板タブレット等を各教科の中で効果的に活用する。	B	・「先生は教え方にいろいろな工夫している」と答えた児童は90%を超えている。 ・通常の授業及びオンライン授業等において、タブレットで活用することができた。 ・情報活用能力(情報モラル)について課題がある。	・授業の中で、効果的にタブレットを活用する研究を進めていく。 ・機器の操作だけでなく、インターネットやSNSの使い方等、情報モラルについても指導していく。 ・ICT支援員を活用していく。	デジタルとアナログのよいところを両面で活用してほしい。
	「豊かな心」の育成 ①道徳教育の推進 ②いじめ等の未然防止、早期発見、早期対応に向けての組織的な取組の推進 ③不登校の児童生徒やその保護者への支援体制の充実 ④体験活動等の実施	③不登校児童の未然防止に努める。	・1日目の欠席でも理由により家庭へも理由によっては連絡を取り、保護者への粘り強い働きかけを行う」と回答する割合が80%以上になる。 ・児童アンケートにおいて、「学校へ行くのが楽しい」と回答した割合が85%以上になる。	・教職員アンケート「1日目の欠席でも理由によっては連絡を取り、保護者への粘り強い働きかけを行う」と回答する割合が80%以上になる。 ・児童アンケートにおいて、「先生や友達に、すすんであいさつしている」と回答する割合が80%以上になる。 ・児童アンケートにおいて「命をたいていせつにすることやいじめやいたづらをされた人の気持ちを考えますか」と回答する割合が85%以上になる。	B	・1日目の欠席でも理由によっては連絡を取り、保護者への粘り強い働きかけを行う」と回答した児童が73.1%だった。 ・理由が連絡を取っていないのではなく、不登校対策支援員やふれあい相談員と連携をとり、組織的な対応を行った。 ・不登校対策支援員の配置を受け、別室指導の充実を図ることができた。 ・「自分を大切にすることや他人への思いやりについても教えてもらっている」と回答した児童が90%以上であった。 ・「先生や友だちにすすんであいさつしている」と回答した児童が80%以上であった。代表委員会が積極的にあいさつ運動を行った。また、管理職や専科の教職員が登下校時にあいさつ運動を毎日行った。 ・「命を大切にすること、いじめやいたづらされた人の気持ちを考えます」と回答した児童が90%以上であった。 ・「子どもは自分からあいさつをしている」と「相手のまじりや学習に集中できる子に家ででも話し合っている」と回答した保護者の割合がそれぞれ、80%と85%であった。家庭の理解をより一層得る必要がある。	・家庭とのつながりを深めるとともに、ケース会議や職員会などで職員間の共通理解を図り、状況を見極める。 ・本年度も不登校対策支援員とふれあい相談員の配置を強く希望する。 ・さらに、あいさつの大切さを提示し、地域にもあいさつができるよう推進に努める。 ・アンケートの結果や児童の様子を注意深く観察し、児童理解に努める。 ・ICT活用を推進するとともに、情報モラル教育を推進する。 ・引き続き、毎月児童の様子を共通理解する場を設ける。 ・引き続き、毎学期に行っている「桜っ子のまじりや学習」を持ち帰らせ、家庭でも話し合いができる機会を設ける。	あいさつができる子どもたちの育成は大切である。
		「健やかな体」の育成 ①児童生徒の体力向上の推進 ②魅力ある部活動の推進 ③発達段階に応じた健全な食育の推進	①生活の中で自ら進んで運動に親しむ児童を育て、基礎体力の向上をめざす児童を育てる。 ①体を動かすことの楽しさ及び仲間とかかわり合うことの楽しさを味わわせる。	・体力作りの研修会を持ち、体育時にサーキットトレーニング等を効果的に取り入れ、体力作りの基礎を培う。 ・冬期の寒間休みに週一回耐寒運動を実施する。 ・領域のバランスを考えた体育の年間指導計画を立案し、運動に親しむ機会を増やす。		・冬期の寒間休みの耐寒運動の実施計画を立て、行う。 ・児童アンケート「1日1回は進んだり運動したりして体を動かしている」と回答する割合が80%以上になる。	B	・スポーツテストの結果、体力と敏捷性が全国平均を下回った。 ・「運動能力や体力の向上を図り、粘り強い児童の育成に努めた」と回答する教職員は85%を下回った。 ・児童は、進んで鉄棒週間・縄跳び月間に参加することができた。 ・児童アンケート「1日1回は進んだり運動したりして体を動かしている」と回答した割合は80%以上であった。
教育相談・支援体制の充実 ①キャリア教育の推進 ②スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用 ③教育相談の充実	①キャリア教育を推進し、主体的に学ぶ児童を育てる。 ②スクールカウンセラーを活用する。	・キャリアパスポートを記入し、言動を振り返る。 ・スクールカウンセラーによる授業を行う。	・キャリアパスポートを年間3回(目標・半年の反省・年間の反省)実施する。 ・年間1回行う。	B	・キャリアパスポートの記入は行ったが、「キャリア」としての教育ができたかは定かではなかった。 ・スクールカウンセラーによる健康相談を行い、保護者に啓発できた。	・キャリアパスポートの記入を促しているが、「キャリア」としての教育ができたかは定かではなかった。 ・ポートフォリオ等を活用するかを年度初めに確認し、キャリアアートの活用等の提案をしていく。 ・全学年、年間1回はスクールカウンセラーによる授業を行う。	SCやSSWの活用状況がわかった。今後も活用してほしい。	
特別支援教育の推進 ①伊丹特別支援学校の活性化 ②特別支援教育の充実	②インクルーシブ教育の推進に努める。	・支援についてチーム(学年・学校)で対応するために、子どもの情報交換をこまめに行う。 ・毎月部会で、児童の実態を吸い上げ、支援方法・体制を検討する。 ・児童理解に基づく個に応じた合理的配慮の提供と基礎的環境整備の充実を図る。	・教職員アンケートにおいて「インクルーシブ教育について、職員間で共通理解し、各自の立場で推進している」と回答した割合が80%以上になる。 ・児童アンケート「1日1回は進んだり運動したりして体を動かしている」と回答する割合が80%以上になる。	B	・特別支援教育部を中心に、インクルーシブ教育を推進し教職員アンケートで「共通理解し、各自の立場で推進している」と回答した割合は80%を上回った。 ・毎月の特別支援部会でも、各学年から報告された児童の実態を吸い上げ、共通理解を図ることができた。 ・「個別対応として、児童の様子にユニバーサルを取り付けた。支援学級や特別教室から優先的に取り付けたが、まだ全部の教室にはつけられていない。	・個別の指導計画の書式をより記入しやすく活用しやすいものに変更していく。 ・児童の報告は必要に応じて職員会議後の時間を利用し、全職員に共通理解を図る。 ・引き続き、通常学級にも順次ユニバーサルをつけていく。	個に応じた指導を今後も大切にしてほしい。	
	①「わかる授業」を進めるため、授業研究を進める。	・授業力を高めるため、授業を公開し、授業研究を行う。校内研修(さくらカフェ)を定期的に行い、指導力を向上させる。	・年6回の校内研修を実施する。 ・6月の校内研修、および、校内研修を実施し、教職員の授業力向上を推進できた。 ・数学的な見方・考え方を育てる第一歩として、子どもの考えに寄り添い、授業を進めることができた。 ・「めあて」「まとめ」「振り返り」を意識した授業展開に加え、授業の山場を意識して授業を行った。 ・校外より様々な立場の講師を招き、講話を拝聴した。		・年度当初も含め、全職員で共通理解ができるように場の設定を工夫する。 ・引き続き、数学的な見方・考え方を獲得する場での話し合いを取り入れた授業を行う。 ・授業の山場が盛り上がり深まった要因を分析し、導入や問題設定、単元構成などの手立てを工夫する。 ・多様な意見をまとめながら、本校の児童の実態に合わせ、研究に生かしていく。	充実した研修を実施できている。		
教育環境の整備・充実	学校を支える組織体制の整備 ①コミュニティ・スクールの充実 ②地域と学校の連携・協働体制の構築	②色んな機会を通して、積極的に学校情報を発信する。	・学校だよりを月1回以上発行し、地域にも配布する。 ・学校ホームページを定期的に更新し、学校情報を積極的に発信する。 ・懇談時等で保護者の願いや意見を聞き、情報を発信する。	・学校だよりを月1回以上発行する。 ・自校のホームページを定期的に更新する。 ・保護者アンケートにおいて、「学校は保護者の願いに応えている」と回答した割合が90%以上となる。	B	・学校通信(学校だより)の発行、HPの更新は十分にできたと思える。 ・学校HPを定期的に更新し、学校情報を積極的に発信することができた。 ・新たに導入されたGoogleclass room等のシステムを積極的に活用していく。 ・幅広い視点で発信することで、保護者の関心を高めたい。 ・今後も継続してホームページの更新を続けていく。 ・学年HPの更新回数について制限をなくし、更新頻度を上げる。 ・ICT支援員を活用する。	学校のHPは見やすく作っている。	
	安全・安心な教育環境の充実 ①学校園防犯訓練・防災教育の充実 ②子どもの安全対策の推進 ③交通安全対策の推進 ④学校園施設の整備・維持保全 ⑤学校における働き方改革の推進	・子どもたちの危機対応能力や災害に応じた対応力を育てる。 ①学校園防犯訓練・防災教育の充実 ②子どもの安全対策の推進 ③交通安全対策の推進 ④学校園施設の整備・維持保全 ⑤学校における働き方改革の推進	・防災訓練(火災1回、地震1回)を実施する。(年2回) ・防犯訓練(不審者)を実施する。(年1回) ・引き続き訓練を実施する。(2年に1回・今年度実施) ・安全点検を行う。(月1回)	・児童アンケートで「学校で安全に気をつけて行動している」と回答する割合が90%以上になる。 ・児童アンケートで「学校で安全に気をつけて行動している」と回答する割合が80%以上になる。 ・保護者アンケートで「学校は、学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている」と回答する割合が80%以上になる。		A	・「学習の場として活動しやすい環境が整っている」「子どもの安全に関する適切な指導をしている」と回答した保護者は81%であった。 ・緊急時施設用の鍵を各教室に設置した。 ・今年度、1学期に引き渡し訓練を実施した。 ・地震避難訓練の事前学習用資料が更新されていないため、実態に合っていない。	子どもたちの安全・安心に向けて、引き続き、地域、PTAと連携をお願いしたい。

<p>学校関係者評価総括 ・保護者アンケートがデジタル化され、保護者評価が低くなっていることが気になる。今後、アンケートの改善を望む。</p> <p>次年度に向けた重点的な改善点 ・引き続き、「子どもたちの幸せの実現」に向けた取組を、学校・家庭・地域が連携して取り組む必要がある。</p>
--